

URAを軸にした研究力強化 ～筑波大学の挑戦～



1

文部科学省「研究大学強化促進事業」筑波大学

平成25年度配分予定額：300百万円

- 学長をリーダーとする「研究戦略イニシアティブ推進機構」に研究リソースを結集
- 「計算科学研究センター」と「生命領域学際研究センター」の世界トップレベル拠点化
- 世界トップレベル研究を推進する「国際テニュア・トラック制度」などの国際化施策
- 本部と部局のURA30人体制による強力な研究支援を実施



2

筑波大学の研究力分析

研究・教育体制の特色

1. 講座制を廃し、グループ制

- ・若手など独立した教員による多種多様なテーマ
- ・学際的融合の研究体制を構築できる
- ・プロジェクトベースのため、継続的・大規模研究しづらい⇒研究競争力欠如

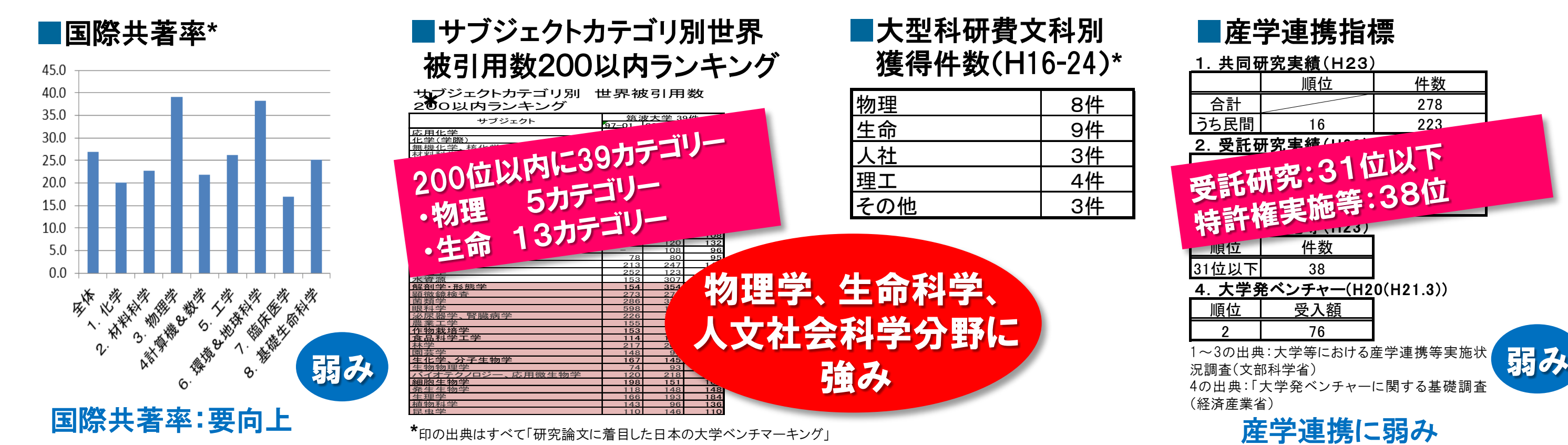
2. 人、理、工、生、物、医、学に芸術、体育、図書館情報を擁す

- ・「大学らしい」総合大学
- ・マルチサポート・システムの枠組みでのスポーツ科学
- ・多くの教員組織、個性の反面、支援や活動が分散し非効率

3. 多くの小規模研究センター

- ・多種多様な21の研究関連センター
- ・災害、エネルギー問題等の喫緊の社会的課題に対応する研究
- ・センターには人事権が無くセンター長のリーダーシップが発揮できない

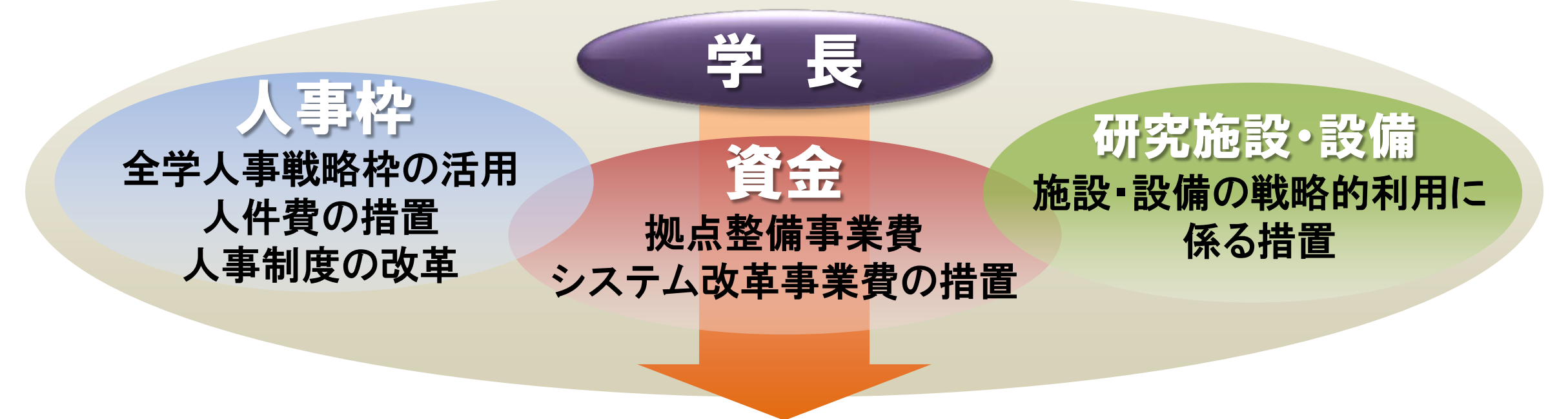
研究力の定量的分析



3

研究力強化の骨太方針

学長のリーダーシップのもとに学内リソースを集約し研究強化推進



研究戦略イニシアティブ推進機構（機構長：学長）

| 拠点強化形成 | 研究環境整備 | 制度改革 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">●計算科学研究センター、生命領域学際研究センターを世界トップレベル拠点へ➔人事権付与(学則改正)●3つのトップダウン方式の研究拠点形成 | <ul style="list-style-type: none">●研究設備の共用化(オープンファシリティ)●URA30人体制構築●研究スペースの重点的配分 | <ul style="list-style-type: none">●全学戦略枠を担保にした年俸制の拡充●教員の評価軸の構築と研究時間保証/機能分化●産学官連携体制の強化 |
| 3つの重点取組 ①国際強化:国際テニュアトラック ②一流外国人研究者招聘 ③研究時間の質と量保証 | | |
| 若手 22.7% ➔ 30%以上 女性 15.6% ➔ 25%以上 外国人 5.0% ➔ 11%以上 | | |

4

筑波大学の研究大学強化促進事業における施策

重点的な研究力強化策

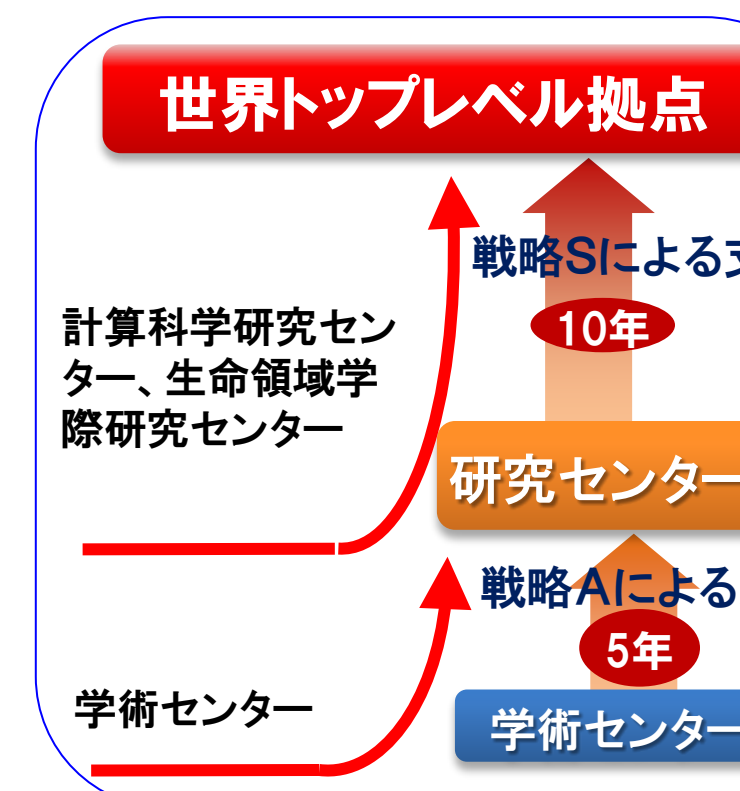
- 計算科学研究センターと生命領域学際研究センターを人事権のある世界トップレベル研究拠点に
- 世界的研究拠点をを目指す3つの学術センターを設置

- 3つの重点取組:
- ①国際テニュア・トラック制度
 - ②一流外国人研究者の招聘
 - ③研究時間の質と量の保証

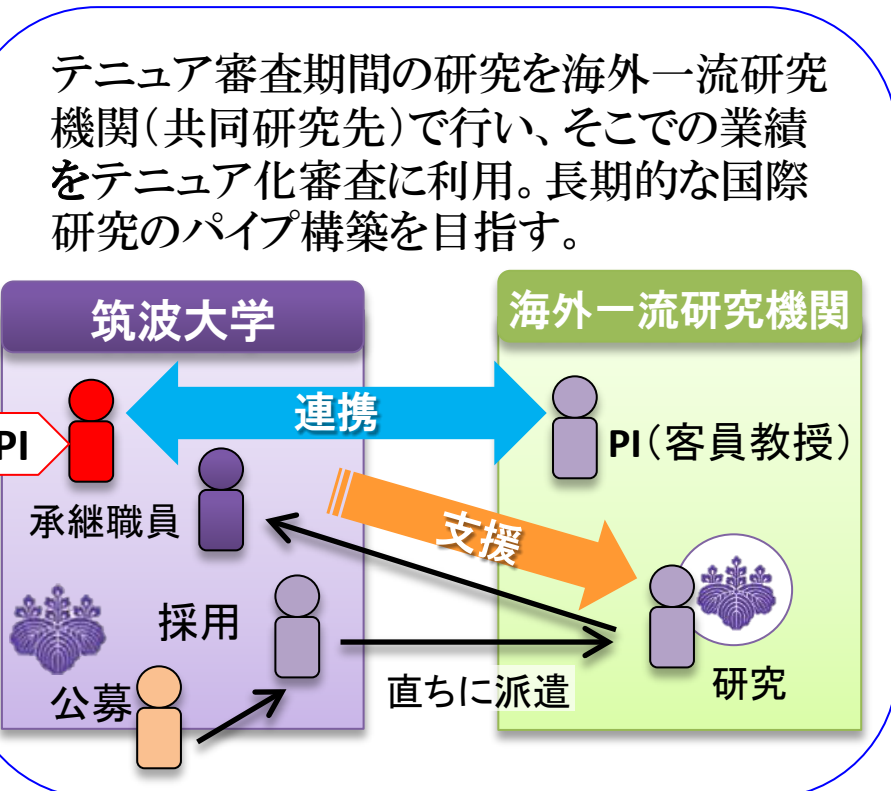
基盤的な研究力強化策

- URA30人体制構築
「研究戦略イニシアティブ推進機構」による研究力強化策を本部、部局URAの連携で学内展開
- 研究設備共用化の促進(オープンファシリティ)
- 国際共同研究の推進
- 産学連携体制の強化

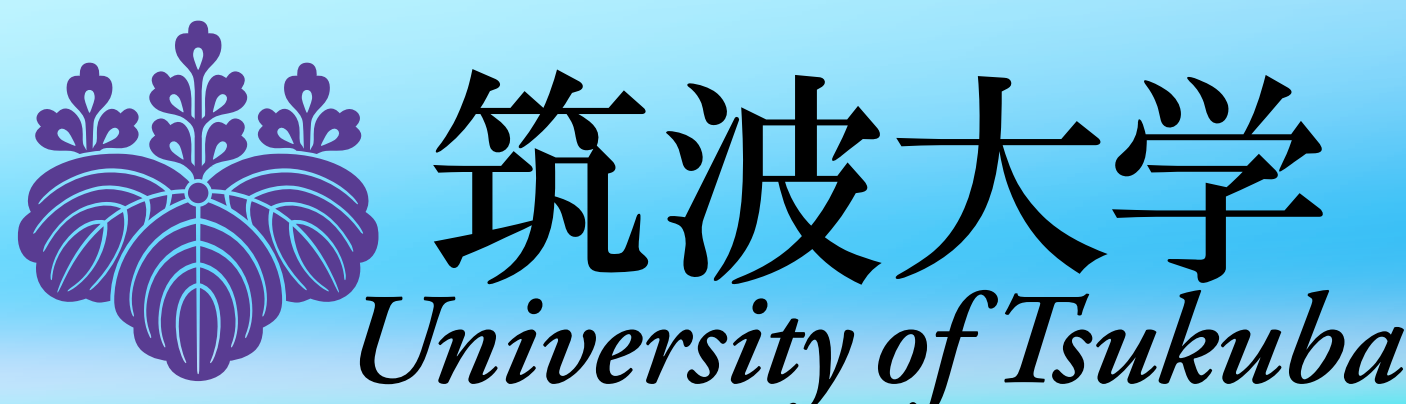
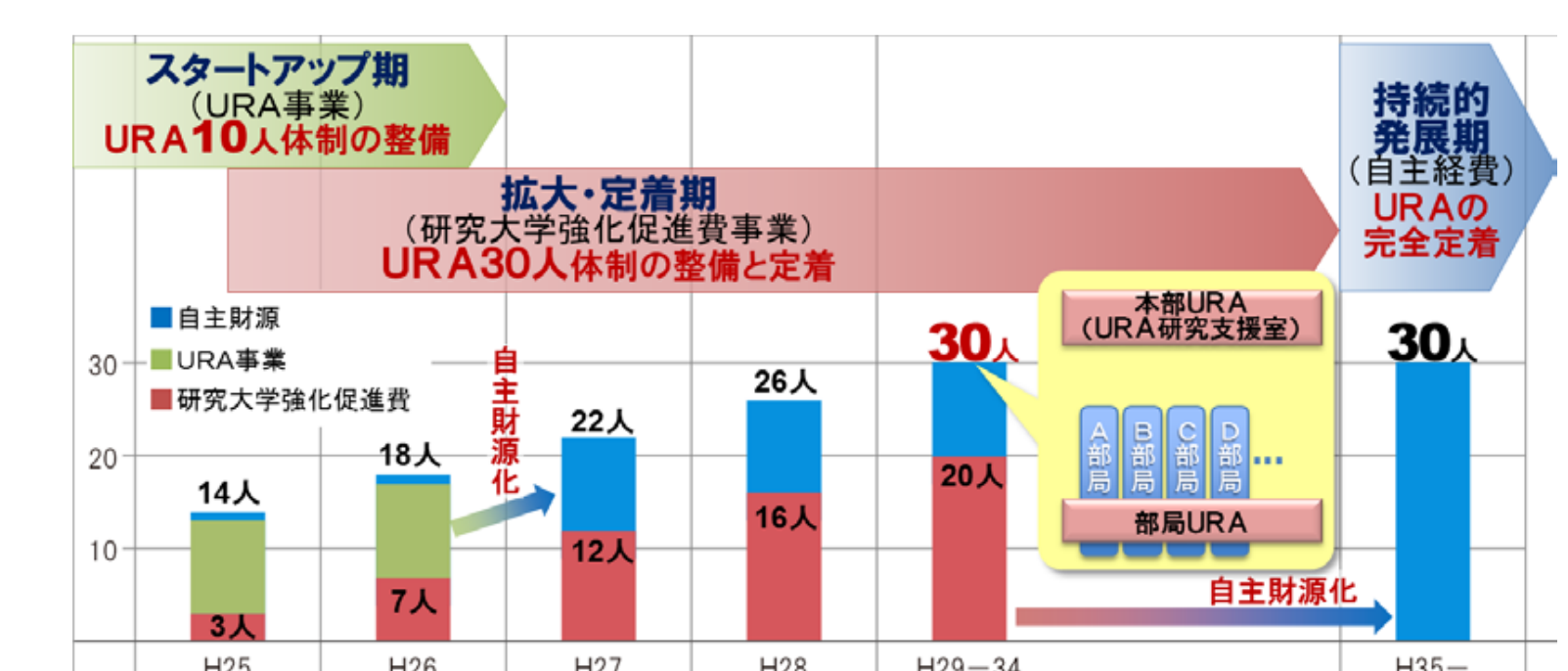
重点的な研究力強化策の例: 研究拠点形成



国際テニュア・トラック制度



基盤的な研究力強化策の例: URAの確保と活用



筑波大学URA研究支援室
Research Administration Office

